



『連合アクション！街頭行動』の取り組み



2023 春闘勝利、働く者全ての賃金引上げ、労働条件の改善をめざし取り組む



挨拶する澤田精一連合福島会長

連合福島は、2月15日(水)の17:30より福島駅東口エスタビル前において「連合アクション街頭行動」を実施した。

2023春闘の一環として、働き方改革の推進、雇用の維持・継続を前提とした底上げ・底支え、格差是正をはかりつつ、年度末を前にコロナの影響に伴う売上げや業績不振により、解雇・雇い止め或いは採用取り消しや内定取り消しなどが危惧されることから、「なんでも労働相談ダイヤル」「メンタルカウンセリング」の周知と浸透に努めた。今回も、コロナ感染防止も踏まえ必要最低限の参加人数に絞り、福島地区連合役員の協力も得て取り組んだ。

冒頭、連合福島を代表し澤田精一会長は、『ロシアによるウクライナ軍事侵攻、円安の影響により、エネルギーや原材料価格の高騰が続き、物価、光熱費の値上がりが続いている。この物価の上昇は、弱い立場に置かれた人の生活を直撃し、多くの方が苦しんでいる。連合福島は、早急に生活困窮者への支援が必要なことから、先月24日、内堀県知事に対し、生活困窮者支援に対する緊急要請を行ってきた。』

2023春季生活闘争が、福島においても本格的にスタートした。まさに2023年は、約30年間賃金が上がらなかった、先進国で唯一の日本がこのまま続いていくのか、これまでとは違って、今後持続的に賃金が上昇していけるのか、分水嶺とも言える年である。

2023春闘は、賃上げを中心とする「人への投資」によって、生産性と実質賃金を持続的に改善し、そのことにより労働者や企業に浸透したデフレマインドを断ち切り、賃金も物価も、そして、日本、福島の経済も安定的に成長、発展する経済へとステージを変えなければならない。

これから、労働組合と会社側による春闘の交渉が本格化していく。真摯に交渉し、その結果をそれぞれの責任において、社会にしっかりと波及させることも大変重要である。



取り組みアピールをする澤村英行副会長

連合福島は 2023 春闘勝利、大企業だけでなく、福島に多い中小企業、パート・契約社員などすべての働く人の賃金引上げ、男女間の賃金格差の是正を含め、県全体で継続した賃上げ、労働条件の改善をめざし、総力をあげて取り組む』と挨拶した。

最後に、連合福島・澤村英行副会長より2023春季生活闘争の取り組みアピールをし、街頭行動を打ち上げた。

街頭では、感染防止上から十分なソーシャルディスタンスを確保、ビニール手袋をしてチラシ付ティッシュを配るなど通行される市民に訴えた。気温も低く帰宅を急がれる人が多い中、立ち止まって傾聴される方もあり、関心の高さが感じられた。



感染対策をしティッシュを配布